

第3章

住民意向調査の結果

1. 調査概要
2. 調査結果のまとめ



1. 調査概要

都市計画マスタープランの策定にあたり、本町の住みやすさ、将来像、魅力等を把握し、計画づくりの参考としていくために「住民意向調査」を実施しました。

【住民意向調査の実施概要】

調査目的	将来のまちづくりや土地利用に関する町民意識を把握し、これらの調査結果を反映した都市計画マスタープランの計画策定に取り組む。
調査対象	町民 2,000 人（15 歳以上を無作為抽出）
調査方法	郵送（配布・回収）によるアンケート調査
調査期間	令和 2 年 11 月 27 日（金）～12 月 28 日（月）
回収率	43.9%（878/2,000）
調査項目	I. 属性 II. 住みやすさについて III. まちづくりの満足度・重要度について IV. まちの将来像について V. 都市整備の方向性について VI. 都市整備の規制について VII. 行政と住民が協働で取り組むまちづくりについて ※詳細な調査結果については、参考資料編に記載しています。



2. 調査結果のまとめ

(1) 扶桑町の住みやすさ

- ①住民が考える住みやすさの基準：商業施設や生活利便施設が整っていること、犯罪が少ないこと
- ②これを踏まえ、住民の約86%が扶桑町は「住みやすい、どちらかと言うと住みやすい」と感じており、住み続けたいと感じている
- ③扶桑町の良い所：買い物が便利、自然が豊か、鉄道の駅が多い
- ④扶桑町の悪い所：大きな病院・福祉施設が充実していない、鉄道以外の公共交通が不足

(2) まちの将来像

まちの将来像として、主に次の内容が求められる。

- ①交通事故や犯罪のない安全・安心のまち
- ②子どもや高齢者、障がい者の一人ひとりを大切にしたい、心がかよう暮らしやすいまち
- ③学校、病院、商店などの生活に必要な施設が集まった生活に便利なまち

(3) 将来の土地利用・都市施設

将来の土地利用・都市施設について、それぞれ次の取組が求められる。

- ①「開発・整備」：歩きやすい道路等を整備、駅を中心とした利便性の高い施設集約、賑わいづくりに寄与する生活利便施設の誘致
- ②「住宅地」：公園、下水道等の生活環境の整備、生活道路の拡幅
- ③「商業地」：徒歩圏や住宅地周辺へ商業施設の立地確保
- ④「工業地」：企業誘致と工業地の拡大、既存工場の維持
- ⑤「農地」：農園付き住宅等による農地の活用、部分的な土地利用転換
- ⑥「道路・交通環境」：歩道の整備や段差の解消、自転車用道路の整備、駅周辺の整備
- ⑦「公共交通」：新たな公共交通は必要、若しくは将来的に必要
- ⑧「公園緑地」：避難場所などの防災機能確保、休日楽しめる公園
- ⑨「自然環境」：河川などの水辺空間の保全や整備
- ⑩「都市整備」：公共空間のユニバーサルデザイン化・バリアフリー化
- ⑪「防災」：迅速な情報伝達体制の整備、密集市街地*の改善、避難場所や避難路等の確保

(4) 都市整備の規制

- ①都市計画規制について「わからない」が多く、十分な理解が得られていない
- ②住環境を良くしていくために、空き地や休耕田の解消、高層建築物の規制が求められる
- ③地区計画*などのルールづくりに関しては、重要性は認識しているが、自分たちで決めることのハードルの高さを感じていると思われる

(5) まちづくりへの参加

- ①「特に参加したいと思わない」が多く、関心が低い
- ②官民協働のまちづくりについては、「住民の要望を把握しながら、行政が主体となって取り組む」が多く、消極的である



(6) まちづくりの満足度・重要度

これまでのまちづくりについて町民が考える満足度と重要度を把握するために、満足度と重要度を5段階で調査し、分布図として整理した結果、次のような傾向となりました。

【重点改善項目】

重要度が高いが満足度が低く、重点的に改善が必要な項目

歩道などの歩行環境の整備、医療・福祉施設の整備、身近な生活道路の整備、防犯対策 等

【重点維持項目】

重要度、満足度が共に高く、重点的に維持が必要な項目

商業施設の立地状況、駅や公共施設の整備、鉄道の便りさ、国道などの幹線道路の整備 等

【維持項目】

重要度は低いが、満足度が高く、維持が必要な項目

教育・文化・スポーツ施設の整備、騒音・振動などの公害対策、公園・緑地の整備、緑の創出 等

【推移注目項目】

重要度、満足度が共に低く、推移を注目しながら維持が必要な項目

まちづくりに関する情報の取得、農地の有効活用、市街地の町並みなどの景観づくり、工場の立地状況、自治会や環境改善活動などの住民が主体となった地域活動の行政支援 等



